

## 医療安全対策地域連携に伴う病院間相互ラウンドの取り組み

済生会和歌山病院

医療安全管理者 澤田 康幸



当院は 200 床を有する 2 次救急医療を担う病院で、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院を目指している。

平成 30 年度診療報酬改定において、医療安全対策に関する医療機関の連携に対する評価（医療安全対策地域連携加算 1・2）が新設された。これは医療安全対策加算を算定する複数の医療機関（特定機能病院以外）の連携を評価するものである。当院は、この医療安全対策地域連携加算 1（以下、加算 1 と略す）の施設基準を取得している。

加算 1 の相互ラウンド施設は、利便性を考慮し日本赤十字社和歌山医療センターと行っている。加算 2 のラウンド施設も比較的移動距離の近い A 整形外科病院と B リハビリテーション病院である。

### 【病院間相互ラウンド実施までの計画】

相互ラウンドの目的は、医療事故防止を図るため、第三者的視点から検証し、それぞれの病院の医療安全強化、改善につなげる。また病院間のコミュニケーション及び情報の共有を図り、訪問する側、受け入れ側の双方が医療事故防止策について学ぶこととした。

相互ラウンドを実施することにより、期待される効果としては、

- ①医療安全対策における自施設の課題が明確になり、他施設の良い取り組みを情報共有することで、病院全体の医療安全の向上を図るとともに、医療の質の向上にもつながる。
- ②単なる指摘だけでなく、評価する側、評価される側も医療安全に対する姿勢が高まるとともに、より良い人材育成をすることにもつながる。
- ③相互チェック実施後も医療事故発生時の原因究明・再発防止策の助言など相互の病院でも連携体制が期待される等が考えられる。

事前に双方の医療安全管理者で、病院間相互ラウンド実施要綱及び医療安全相互チェックシートを作成を行った。また、当日の進行予定等の打ち合わせを行った。

### 【病院間相互ラウンドの実施】

相互ラウンド当日は、緊張感のなか開始されたが、ラウンドが進むにつれて気づいた点（良い部分・悪い部分）を積極的に指摘し合い建設的に意見交換を行った。ラウンド終了後は参加者全員でディスカッションを行い、ラウンド全体の評価と今後の展望を話し合い終了した。ラウンド終了日から2週間以内に、「病院間における医療安全相互チェック」報告書を作成しチェック対象病院に送付した。



医療安全対策地域連携に伴う病院間相互ラウンドは、自施設の医療安全について振り返るよい機会になった。今までも自施設内で安全パトロールと題して、安全対策面の問題について改善策を立て取り組んできた。これも有効であると思われるが、はじめて他施設からの外部評価を受けたことで、内部評価ではわからない安全管理上の問題点が明らかになり、大きな収穫であったと考える。指摘を受けたマニュアルの作成および改訂、指差し呼称の推進、診療録の定期的な監査等改善に取り組んでいる。また、画像診断報告書・病理診断報告書の確認不足による事故発生を防止するためのシステムの構築にも取り組んでいる。

訪問施設の医療安全対策への取り組みが、当院にとって参考になることも多くあった。相互ラウンドを実施したことで、安全対策委員の医療安全に対する意識の向上が委員会等での発言から見受けられた。患者さんに安全・安心な医療を提供するためにも、常日頃から地道に医療安全対策に取り組んでいかなければならないと感じた。

(問い合わせ先)

640-8158

和歌山市十二番丁 45 番地

社会福祉法人恩賜財団済生会和歌山病院

TEL : 073-424-5185

E-mail : sawayan7\_7@hotmail.com

医療安全管理室 澤田 康幸